

国分寺駅北口駅前広場の植物

駅前広場全体のコンセプト

再開発ビルの緑地や壁面緑化と駅前広場を合わせて全体をハケ(※)ととらえて、植物が植えられています。



春のヤマザクラ



秋のコナラ



夏の駅前広場



秋のシルエット



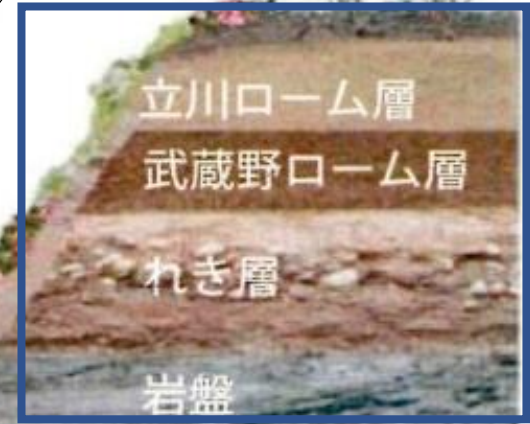
冬のモチノキ

武蔵野の森

年代毎に異なる層の重なりは
粒子の粗密で判断される

ハケに植生する豊かな緑

野川↓



駅前広場はハケのうち、
この部分をイメージしています。

ビルはハケのうち、
この部分をイメージしています。



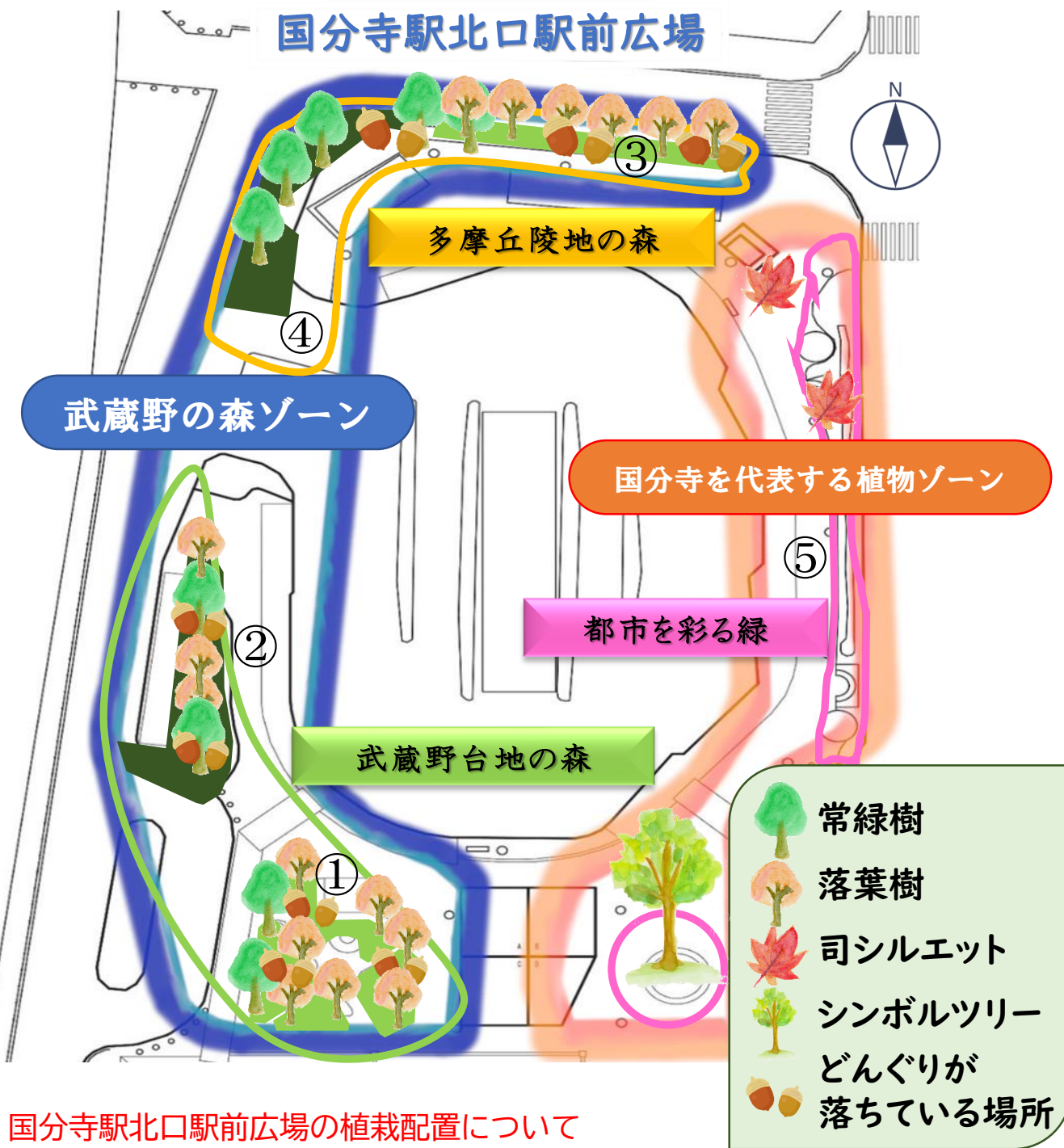
積層感を表現した外壁と緑を表現した壁面緑化



※ハケとは
国分寺の特徴的な地形で
あり、昔の多摩川が南方
向へと流れを変えていく
ことでできた、階段状の
地形である国分寺崖線の
ことを指します。

外壁面で表現された未来のはけ

国分寺駅北口駅前広場



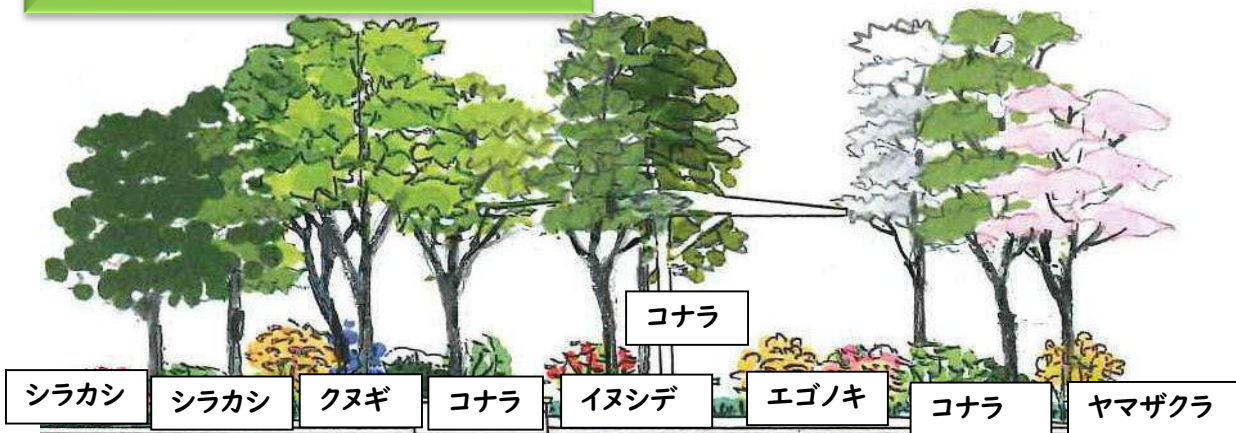
国分寺駅北口駅前広場の植栽配置について

国分寺駅北口駅前広場では南西側から北西側にかけて、「武蔵野の森」ゾーンとして構成しています。また、南西側と北西側で性質が異なる「武蔵野台地の森」と「多摩丘陵地の森」を再現しています。2つの森をさらに「人が利用している落葉樹の森」と「利用が停滞して自然への移行が進んだ森」として、手入れの違いを意識して分け、計4つの森で構成しています。

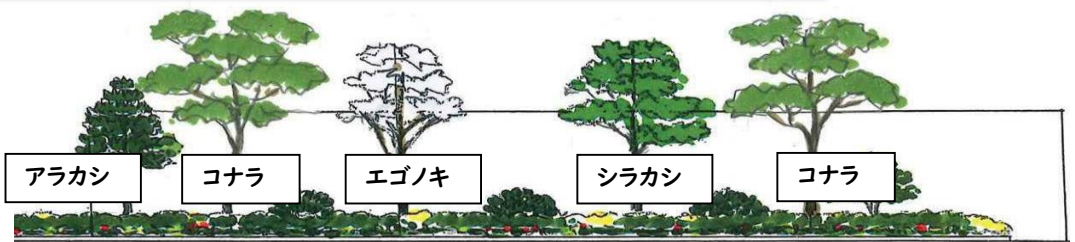
広場東側については、「国分寺を代表する植物」ゾーンとして構成しています。市の木であるケヤキ、市の花であるサツキに加え、国分寺の園芸品種であるシルエットなど、都市を彩る緑として武蔵野の森から独立した構成としています。

※武蔵野台地とは関東平野にある台地の名称であり、荒川・多摩川・入間川に囲まれていて西は青梅・東は品川・北は川越・南は調布へと、広範囲に及んでいます。国分寺市もこの台地の上にあります。
※多摩丘陵地とは西の高尾山麓から町田の神奈川県境まで広がる都内最大の丘陵地帯です。

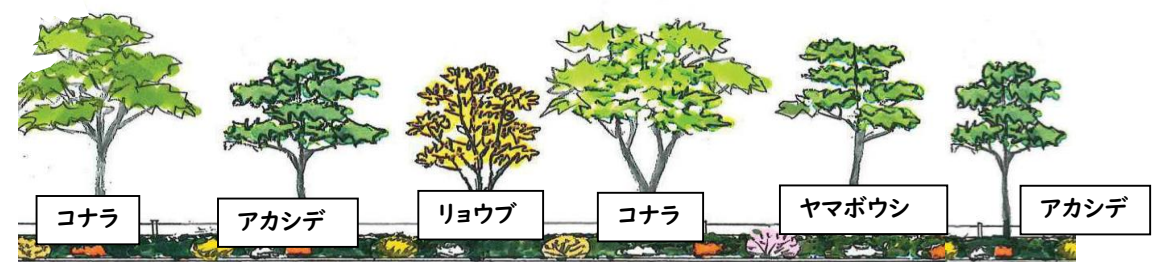
① 武蔵野台地の森エリアの植物 (人が利用している落葉樹の森)



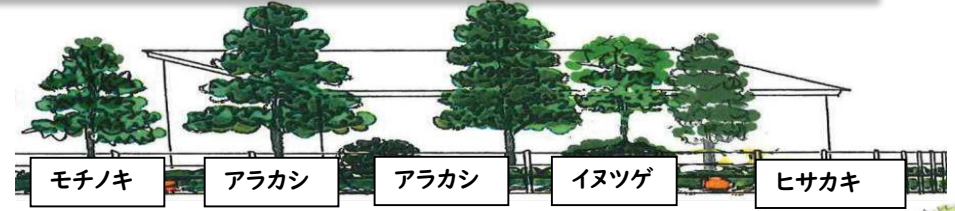
② 武蔵野台地の森エリアの植物 (利用が停滞して自然林への移行が進んだ森)



③ 多摩丘陵地の森エリアの植物 (人が利用している落葉樹の森)



④ 多摩丘陵地の森エリアの植物 (利用が停滞して自然林への移行が進んだ森)



⑤ 都市を彩る緑エリアの植物

